

道有林野事業評価

管理区評価

令和3年9月作成

水産林務部森林環境局道有林課

渡島総合振興局東部森林室

## ○管理区評価調書

## 1 森林の整備に関する事項

## (1) 森林の整備

## ア 森林資源の状況

区分		単位	計画期首	計画期末	増減	
人工林	育成単層林	面積	ha	7,914	7,671	-242
		蓄積	千m3	1,937	1,865	-72
	育成複層林	面積	ha	552	788	236
		蓄積	千m3	126	216	90
	計	面積	ha	8,466	8,460	-6
		蓄積	千m3	2,063	2,081	18
天然林	天然生林	面積	ha	26,601	26,607	5
		蓄積	千m3	4,130	4,406	276
その他	未立木地等	面積	ha	943	944	1
		蓄積	千m3	0	0	0
計	面積	ha	36,011	36,011	-0	
	蓄積	千m3	6,193	6,487	294	

※「計画期首」は前期計画の期首、「計画期末」は前期計画の期末（以下同じ）。

## イ 計画量の実行状況

区分		単位	計画 (A)	実績 (B)	実行率 (B)/(A) %	
伐採	人工林	主伐	千m3	114.9	128.3	112
		間伐	千m3	60.0	87.1	145
		計	千m3	174.9	215.4	123
	天然林	主伐	千m3	0.0	0.0	
		間伐	千m3	0.0	0.8	
		計	千m3	0.0	0.8	
	計	主伐	千m3	114.9	128.3	112
		間伐	千m3	60.0	87.9	147
		計	千m3	174.9	216.2	124
造林	人工林	人工造林	ha	1,008.0	615.0	61
		天然更新	ha	0.0	0.0	
		計	ha	1,008.0	615.0	61
	天然林	人工造林	ha	0.0	0.0	
		天然更新	ha	0.0	0.0	
		計	ha	0.0	0.0	
	計	人工造林	ha	1,008.0	615.0	61
		天然更新	ha	0.0	0.0	
		計	ha	1,008.0	615.0	61
路網 (開設)	林業専用道	km	7.7	14.8	192	
	森林作業道	km	0.0	0.0		
	計	km	7.7	14.8	192	

※「計画」は前期計画（以下同じ）の計画量である。

ウ 評価指標

(ア) 伐採材積の実行率 (千m<sup>3</sup>、%)

計画	実績	実行率
174.9	216.2	124

※伐採実績総量の計画総量に対する割合

(イ) 間伐面積の実行率 (ha、%)

計画	実績	実行率
1,182	1,160	98

※計画期間における間伐実績総量の計画総量に対する割合

(ウ) 路網密度 (m/ha)

計画期首	計画期末	増減
6.1	6.0	-0.1

※計画期首と計画期末における路網密度

(エ) 人天別森林蓄積 (m<sup>3</sup>/ha)

区分	計画期首	計画期末	増減
人工林	244	246	2
天然林	155	166	11
平均	172	180	8

※人工林、天然林別のha当たり蓄積

(オ) 育成複層林など多様な森林に誘導する人工林面積 (ha)

区分	計画期首	計画期末	増減
育成単層林	2,318	2,447	129
育成複層林	552	788	236
計	2,870	3,235	365

※5ha以下の単層林施業と複層林施業の合計実施面積

エ 課題 (評価指標の分析等)

当管理区では森林面積の23%を占める人工林において森林の公益的機能の維持増進を図る基本的な考え方の下、効率的な施業が可能な人工林において主伐・再造林を積極的に取り組むとともに、水道取水口の上流部など施業に配慮が必要な箇所では伐期を延長する施業や育成複層林に誘導する取組を行いました。また、過密な人工林の間伐を進め、これらの施業を通じて木材を安定的に供給しました。

- ・伐採材積について  
人工林の主伐及び間伐を計画的に進め、地域の木材の安定供給に取り組みました。なお、事業の実施に当たっては最大で5haの皆伐とするほか、集材路の付け方を工夫するなど土砂流出を最小限にとどめることで公益的機能の発揮に配慮を行っています。
- ・造林について  
平成28年8月に発生した4つの台風による人工林の風倒被害跡地の早期復旧を図る植栽を重点的に実施したため、通常の再造林が後回しになり計画に対してやや低い実行率になりました。
- ・間伐について  
人工林の成長促進及び下層植生の回復を目的として、列状間伐を積極的に導入しました。
- ・路網について  
増大する路網維持費に対応するため林業専用道の開設（施業道の改良）を積極的に実施したため、路網密度はほとんど変化しませんでした。
- ・森林蓄積について  
公益的機能の維持増進を図る基本的な考え方の下に森林整備を行い、森林蓄積は維持されています。
- ・育成複層林など多様な森林に誘導する人工林面積について  
計画的かつ適切な森林整備・管理により、道有林の人工林を育成複層林など多様な森林へ誘導していきます。

オ 今後の対応方向

トドマツは高齢化に伴い腐朽が進み木材としての価値が低下する恐れがあるほか、箇所によっては広葉樹の更新が見られるため、こうした現況に応じ森林を区分し適切な施業を実施していきます。

(2) 森林の保全

ア 取組内容

原生的な森林の保護に取り組むとともに、エゾシカや病害虫等による森林被害の防止・低減を図る取り組みを行いました。

イ 評価指標

(ア) エゾシカ森林被害実面積 (ha)

前計画	現計画	増減
8.36	0.52	-7.84

※エゾシカによる食害等の森林被害実面積

「前計画」は前計画期間の前期、「今計画」は現計画期間の前期である（以下同じ）。

ウ 課題（評価指標の分析等）

エゾシカによる森林被害の防止・軽減を図るため、一般狩猟等の安全対策及び林道除雪等による捕獲環境の整備を行いました。

エ 今後の対応方向

エゾシカによる森林被害を軽減するため、引き続きエゾシカ被害防止対策を進めていきます。

(3) 林産物の供給

ア 取組内容

地域のニーズや森林認証材、木質バイオマスの需要などを踏まえ、木材加工業者等と協定を締結し計画的に木材を供給しました。

イ 評価指標

(ア) 協定販売件数（延べ） (件)

前計画	現計画	増減
3	3	0

※協定販売による契約件数

ウ 課題（評価指標の分析等）

道産木材の需要や販路の拡大を図るため、地域の木材加工業者及び素材生産業者と協定を締結し、道有林材を安定的に供給しました。

エ 今後の対応方向

道産木材の普及と活用を図るため、地域の素材生産業者や木材加工工場等と協定を締結し、原木を供給していきます。

(4) 地域と連携した森林施業等

ア 取組内容

小規模・分散な所有が多い一般民有林の造林事業を円滑に実施するため、道有林の路網を共同で利用する共同施業を推進しました。

イ 評価指標

(ア) 共同施業等の件数 (件)

前計画	現計画	増減
0	1	1

※共同施業、共同出荷、路網等の共同利用の実施件数

ウ 課題 (評価指標の分析等)

道有林の路網を活用することで、一般民有林の造林事業の円滑な実施が図られました。

エ 今後の対応方向

道有林の路網等を活用した一般民有林の造林事業について市町村等と連携しながら進めます。

(5) 森林施業の低コスト化

ア 取組内容

重労働な人力作業が主体となる植栽について、軽労化や低コスト化の取り組みを行いました。

イ 評価指標

(ア) 機械作業を前提とした人工林の造成面積 (ha)

前計画	現計画	増減
6	33	27

※機械作業を前提とした人工林の造成面積

ウ 課題 (評価指標の分析等)

緩傾斜で効率的な作業が可能な箇所では引き続き建設機械による機械地拵えを実施して植栽に係る労働力の低減を図りました。

エ 今後の対応方向

緩傾斜で効率的な作業が可能な箇所では引き続き建設機械による機械地拵えを実施し、保育作業では下刈用の林業機械の導入を促進するとともに、下刈作業の省力化につながるよう早成樹種のコンテナ苗による植栽を検討します。

(6) 林業事業体等の育成

ア 取組内容

林業事業体における雇用の確保や設備投資を促進するため、林業事業体の裁量度を高めた長期安定供給による立木販売を実施しました。

イ 評価指標

(ア) 長期安定供給販売量の割合 (量：m3、割合：%)

区分	計画期首	計画期末	増減
総販売量	43,380	44,000	620
長期安定供給販売量	1,087	10,900	9,813
割合	3	25	

※立木販売総量に対する長期安定供給販売量の割合

ウ 課題 (評価指標の分析等)

高性能林業機械の新規導入が図られ素材生産性が向上したほか作業員の増員もわずかながら図られました。

エ 今後の対応方向

伐採及び再造林を担う林業事業体を育成していきます。

2 森林の管理に関する事項

(1) 取組内容

公有財産である道有林を適正に管理するとともに、入林者の安全を確保するため林道施設の安全点検を実施しました。また、保安林等の適切な管理や入林者の利便性の向上に取り組みました。

(2) 評価指標

ア 林野火災の発生件数 (件)

前計画	現計画	増減
0	0	0

※林野火災の発生件数

(3) 課題 (評価指標の分析等)

林野火災の警防のほか、境界標の保全・復元、高山植物等の希少野生動植物の違法採取・廃棄物の不法投棄などの違法行為を防止する巡視や自動監視カメラの設置等を実施しました。

(4) 今後の対応方向

公有財産である道有林を適正に管理する取り組みを継続します。

3 森林の活用に関する事項

(1) 取組内容

道有林が有している特色のある自然景観や本道を代表する観光資源を活かし森林レクリエーションや観光等に利用されるよう、遊歩道の整備を行いました。また、森林体験学習や森林ボランティア活動、林業現場見学等、木育活動の場として道有林のフィールドを積極的に提供しました。

(2) 評価指標

ア 入林者数 (人)

区分	前計画	現計画	増減
レクリエーション、調査・測量等	7,483	7,679	196
狩猟	114	1,042	928

※計画期間における道有林野への入林者数

イ 木育活動参加人数 (人)

前計画	現計画	増減
382	311	-71

※道有林野をフィールドとした木育活動等の参加人数

(3) 課題 (評価指標の分析等)

新型コロナウイルス感染症の影響はありましたが、森林レクリエーションや木育活動のフィールドとして道有林の活用を図りました。

(4) 今後の対応方向

地球温暖化などの環境問題に対する関心が高まっており、環境意識の高い企業等に対し森林づくり活動の働きかけを行います。

4 道民との合意形成

(1) 道民意見の把握

ア 目的

道民全体の理解を図りながら道有林野事業を推進するため、道民の意見やニーズを把握する。

イ 調査方法

別紙様式による直接アンケート方式。

ウ 評価指数

(ア) 道有林の管理運営に対する満足度 (%)

区分	満足	まあ満足	どちらでもない	少し不満	不満	計
回答数	2	2				4
割合	50%	50%	0	0	0	100

※地域住民へのアンケート調査結果より

エ 課題 (評価指標の分析等)

回答数が少ないので正確なデータではないが、それでも全員が満足している結果は良いと言える。

(2) 管理区評価現地説明会の開催

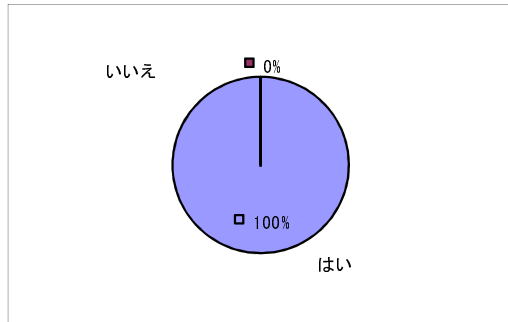
開催年月日	主な内容	参加人数	主な参加者
令和3年9月7日	管理区評価の説明。次期計画箇所の説明	4	函館市関係2、林業事業者2

5 総括 (森林の整備・管理に関する課題と今後の方向性)

現状・課題  
 ・森林資源の把握 ・人工林における森林づくり ・天然林における森林づくり ・林業事業者及び林業労働者の状況 ・原木の需要と供給 ・地球温暖化 ・職員の技術力向上  
 今後の方向性  
 ・ICT技術を活用した森林資源の把握 ・積極的な主伐、再造林 ・天然林を活用した森林づくり ・森林施業の低コスト化・省力化の推進 ・道有林の森林づくりを担う林業事業者の育成 ・地域の木材需要を踏まえた原木の安定供給 ・企業と連携した森林づくりによるゼロカーボン北海道への貢献 ・道有林の森林づくりを担う人材の育成

## 地域住民への意向調査

1 あなたの住んでいる地域(町)に、道が整備・管理をしている森林(道有林)があることをご存じですか。

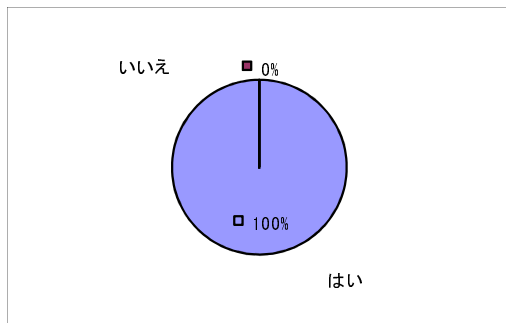


**【コメント】**

鹿部町及び七飯町でアンケートをとった場合はどうなるか分からないが、函館市でアンケートするならこんな感じでしょう。

赤川水源地などにはかなりの入林者がいるので道有林もかなり認知されています。

2 北海道渡島総合振興局東部森林室が道有林の整備・管理をしていることをご存じですか。

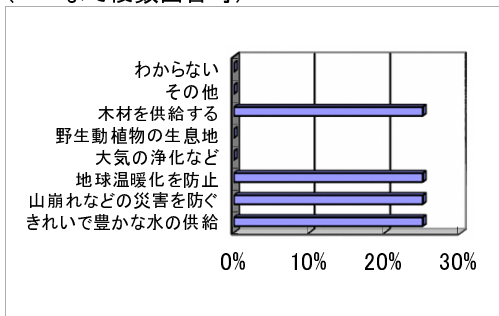


**【コメント】**

平成22年度に「振興局森林室」になって10年以上、関係機関や林業事業者の人たちにはすっかり「森林室」が定着したようです。

本当の地域住民にはまだまだPRが必要かもしれません。

3 森林室では、森林の持つ様々な機能を発揮させる森林づくりを進めています。あなたが道有林に期待する森林の機能のうち、最も重要と考えるものはどれですか。次の中からお選びください。  
(二つまで複数回答可)



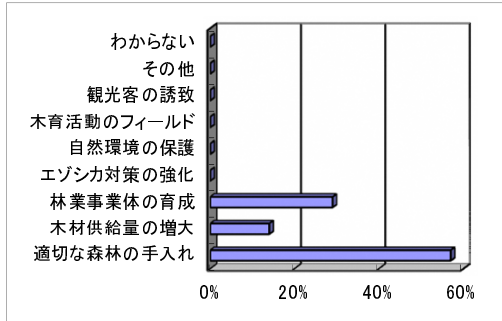
**【コメント】**

きれいな水の供給、災害を防ぐ、地球温暖化防止及び木材供給がそれぞれ同じ割合というのはかなり示唆的です。大気浄化及び野生動植物の生息地が全く無いのも含めて地域住民を関係者に絞った影響が強く出たと思われます。



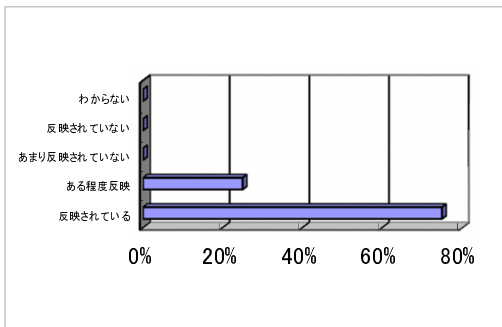
## 地域住民への意向調査

4 道有林の整備・管理に当たって、あなたが森林室に望むものはどれですか。次の中からお選びください  
(二つまで複数回答可)



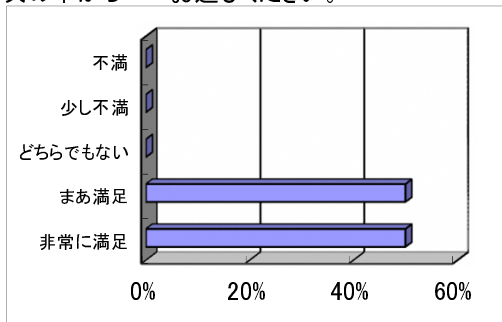
**【コメント】**  
問3と同様に、「適切な森林の手入れ」が一番多いこと、「自然環境の保護」や「木育活動のフィールド」が全くないことが特徴的である。  
本当の地域住民からアンケートをとったら違う結果が出るものと思われる。

5 森林室では、地域の方々の意見を聴きながら、森林の整備・管理に努めていますが、地域の意見や要望が計画や事業に適切に反映されていると思いますか。次の中から一つお選びください。



**【コメント】**  
「ある程度反映」と「反映されている」で100%。もう少しデータがたくさんあれば少し違う結果がでたかも。

6 森林室が行っている道有林の整備・管理に対する満足度は、どのくらいですか。  
次の中から一つお選びください。



**【コメント】**  
こちらも「まあ満足」と「非常に満足」で100%。もう少しデータがたくさんあればばらつきがでたかも。